

## 目次

校本コンテムツスムンヂ	国字本	.....	3
	ローマ字本		
ローマ字本序		.....	8
卷第Ⅰ		.....	9
卷第Ⅱ		.....	105
卷第Ⅲ		.....	161
卷第Ⅳ		.....	369
対訳コンテムツスムンヂ	ラテン語・日本語	...	453
第Ⅰ巻		.....	456
第Ⅱ巻		.....	542
第Ⅲ巻		.....	592
第Ⅳ巻		.....	784

(国) あり ○これ 文 御をしへをあぢハひ ○ 文  
 (R) 事は・ — Christo のご内証に値遇し— 奉らぬ故也。⑥ Christo の

(国) 御 ———— たく—— はば——  
 (R) み言葉を味はひ深く、達して分別し奉らんと思ふに於ては、わが身の

(国) しんだい・ 文 ○ り・  
 (R) 行儀——を悉く Christo に等しくし奉らんと歎くべし。⑦ 謙る心なきに

(国) ・ 御 らば—— 御ないせう  
 (R) よって Tridade のご内証を背き奉るに於ては、その Trindade ・ の高き御

(国) 事 に ○ ————  
 (R) 理を論じてもなんの益ぞ?⑧まことに媚びたる言葉は人を善人にも、正

(国) き」1オ おこなひ ㊦ の御ないせ  
 (R) しき 人にもなさず、ただ善の行儀——こそ人を Deus ————

(国) う あはせ・ 也・ ○  
 (R) 一に親しませ奉るものなれ。⑨ Contrição といふ後悔の理を知るよりも、

(国) れ ———— たもつ ビイビ  
 (R) その Contrição をこ / 4 ころに覚ゆる事は尚好ましき事也。⑩ Biblia

(国) リア うへ ・  
 (R) ——といふ貴き経文の文句を悉くそらんじ、もろもろの学匠の語を皆し

(国) つくし ㊦ 御 ガラサ—— ———— に  
 (R) り——ても、Deus のご大切と、そのご合力なくんば、これ皆なんの

(国) ぞ—— ○ ㊦ 御 事 ・  
 (R) 益かあらん? ⑪ Deus ご一体を大切に思ひ、仕へ奉る・よりほかは皆実

(国) みな・ ○ ———— ・ 至らんと  
 (R) もなき事のなかの実もなき事也。⑫この世を厭ひて、天の御国に——

(国) しかる——— はつるたから  
 (R) 志す事最上の智恵也。⑬かくの如くある時んば、過ぎ去る福德を尋ね求

(国) ・ ○  
 (R) め、それに頼みをかくる事は実もなき事也。⑭位、誉れを望み歎き、身

(国) ・ なり のぞみをしたひ ふかく  
 (R) を高ぶる事も又実もなき事也。⑮骨肉の欲するに任せ・以後甚だ・迷

(国) ○  
 (R) 惑すべき事を望むは、実もなき事也。⑯行儀の正しからん事をば歎か

(国) ながいき ○  
 (R) ずして、長命——を望むは、実もなき事也。⑰現在の事をのみ専らとし

(国) の をせぬ ハ ○——— はつる・  
 (R) て、/ 5 未来を覚悟せざる事・実もなき事也。⑱さしも早く過ぎ去る事

(国) を大切におもひはつる事なき をいそぎもとめぬも・  
 (R) に愛着して——永き——— 楽しみのある所へ急がざる事、実もなき事也。

(国) ————  
 (R) ⑲ OCVLVS non vidit, nec auris audiuit, nec in cor hominis

(国) ————  
 (R) ascendit, quae praeparauit Deusijs, qui diligunt illum. 1.

(国) —— ○ 人の に—— ふ——  
 (R) Cor. 2. ——<sup>まなこ</sup>眼は見る事に飽かず、耳は聞く事を以て達せずといへる尊